

## 東京の臨海部の まちづくり

東京の臨海部には、国の定める都市再生緊急整備地域として「東京臨海地域」「東京駅・有明駅周辺地域」「秋葉原・神田地域」「環状二号线新橋周辺・赤坂・六本木地域」の4つの地域の指定がなされています。

これらの都市再生緊急整備地域について、地域の特性をいかしつつ、その魅力と国際競争力を高めた都市再生の実現（まちづくり）が求められています。

このうち、東京臨海地域においては、R21大川端地区、晴海アイランドトリトンスクエアなどのまちづくりが実現し、東豊キャナルコートや豊洲二・三丁目地区などまちづくりを推進している地区が多数集中しています。

この地域は水らく港湾施設として利用されてきたことから、都心部から至近の距離に位置しながら道路、鉄道などの交通インフラの整備がなされていまいせんでした。現在、東京都が晴海通りの延伸工事、ゆりかもめの延伸（有明から豊洲間）工事を実施しており、環状2号線の一部が整備中です。こうした交通インフラの整備により、地域のポテンシャルが向上し、権利者のまちづくりに向けた機運が高まり、各地区のまちづくりが推進されようとしています。

臨海部のまちづくりの特徴は、地権者を含めたまちづくり組織を立ち上げ、まちづくりの検討を行っていることです。

都市機構は従来からまちづくり組織の運営などにコーディネーター（プロデューサー）として参加し、まちづくりの実現に向けて地権者などと共に検討を進めています。

また、臨海部の最大の特徴は大部分が「水辺」に面しているということです。現在、晴海、豊洲の地権者を中心として水辺活用の検討を行っています。臨海部の魅力を最大限に発揮し他の都市にない「まち」を創出するために、水辺活用実現に向けた課題を一つ一つ解決することが必要です。水辺活用の実現化に向けて都市機構には大きな役割が期待されています。都市機構としても積極的に取り組むべきテーマとなっています。

このような臨海部を取り巻く状況を踏まえ、様々な角度からまちづくりを検討するために、権利者、行政などが幅広くイメージを共有しつつまちづくりを推進することを目的として、縮尺1/10000の臨海部市街地模型を制作し、まちづくりの検討やPRに活用しています。

東京臨海地域においては、公団時代には晴海アイランドトリトンスクエアなどに代表されるような地域のリーディングプロジェクトを実施する役割を担い、まちづくりの推進に寄与してきました。都市機構においては、道路などの基盤整備の促進、まちづくり組織のコーディネート、水辺活用などの規制緩和に係る検討、模型を活用した地域のPRなど総合的なコーディネート（プロデュース）を担い、時には行政と、時には地権者と、時には民間事業者などと協力・連携しつつ、積極的に東京臨海部発展の一翼を担っていきたくと考えています。



▲東京臨海部地空写真



■ 整備化されている主要地区



▲東京臨海部の主なまちづくり協議会等の状況



▲東京臨海部市街地模型

### 鉄道と道路の延伸計画



▲ゆりかもめの延伸



▲道路の延伸



◀東京インナーハーバー連絡会案の提案

晴海をよくなる会の提案 ▶  
(晴海アイランド計画2001)



◀大川端リバーシティ21  
▼晴海アイランドトリトンスクエア



### 都市再生緊急整備地域（東京臨海地域）の整備目標

#### 【晴海・豊洲・有明北・有明南・台場・青海・東雲】

都心に接近し、陸・海・空の卓越した交通条件にある東京臨海部において、物流機能の転出等に伴い発生した低土地利用地の大規模な土地利用転換等により、職・住・学・遊の多様な魅力を備え国際的に情報発信を行う先導的な拠点形成  
この際、水辺の環境をいかしてアミューズメント・文化・商業などの機能を導入し、都市観光にも資するパランスのとれた魅力的な複合市街地を形成

#### 【佃・月島・勝どき・豊海・湊・入船・新富・明石町・築地】

個性を生かしたまちづくりと計画的な大規模開発による機能更新により、都心を支える居住機能を強化した魅力的な複合市街地を形成